



イベント・シンポジウム等実績報告書

配分事業費:432千円

サイエンス・テクノロジーとデザイン (時と場所を考えなさい)

目的・趣旨 「科学」と「技術」を、デザインの力でわかりやすく説明し、学生の科学や技術の分野への興味を引き出す目的で、展示とワークショップ等を組み合わせたイベントを、図書館内のスペースやギャラリー等を使い実施する。

日時・場所 令和7年10月2日～10月14日
静岡文化芸術大学 ギャラリー及び図書館

体制 (実施代表者)デザイン部 デザイン学科 教授 的場 ひろし
デザイン部 デザイン学科 教授 かわ こうせい
デザイン部 デザイン学科 准教授 小川 直茂
デザイン部 デザイン学科 准教授 松江 幸子

内容

- (1)10月2日から10月14日までギャラリーにて、時間を知る方法と位置を知る方法について、現代と1960年頃を比較した横長図表の展示、学生作品十数点の展示等を行い、図書館の展示スペースにて関連書籍の陳列を行った。10月15日以降は、横長図表と学生作品一点(クレイアニメを応用したデジタル時計)を図書館の展示スペースにて展示。
- (2)10月7日に「地理空間情報活用の最前線」、10月10日に「正確な時はどのようにつくられるのか?」の特別講演を実施した。
- (3)10月2日から10月14日まで本学の出会いの広場にてワークショップ「秋の花火」を開催した。



結果・成果

- (1)ギャラリーの展示では、横5.4m×縦1.5mの大きさの横長図表(ターポリン)に、時間を知る方法と位置を知る方法について、現代と1960年頃を比較する形で情報の流れを示した。また、企画・構成を担当した4教員による時間や位置に関するトピックスの解説パネルの展示と、それぞれが指導した学生作品から「時」や「場所」に着目した作品十数点の展示を行った。また、図書館の展示スペースでは、約50冊の関連書籍の陳列を行った。見学者からは、それぞれについて興味深い内容として評価をいただいた。
- (2)特別講演では、五味俊弘氏(ESRIジャパン株式会社 事業開発グループ部長)による「地理空間情報活用の最前線」と、花土ゆう子氏(前 国立研究開発法人情報通信研究機構 電磁波研究所電磁波標準研究センター長)による「正確な時はどのようにつくられるのか?」を実施し、一般市民、学生、教職員が聴講し、貴重な内容の講演だったとの意見が寄せられた。
- (3)ワークショップでは、静岡大学情報学部木谷研究室から技術的な協力を得て、正確な位置情報を検出できる装置を活用した新しい形態のイベントを実施し、参加者から良好な反応を得ることができた。本成果は、測位航法学会主催のGPS/GNSSシンポジウム2025のポスター発表として12月3日に発表が行われた。

